

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300140		
法人名	有限会社ゆとり		
事業所名	グループホームゆとり苑		
所在地	佐賀県小城市三日月町甲柳原170番地2		
自己評価作成日	令和 4年 4月 2日	評価結果市町村受理日	令和4年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和4年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は、周囲を自然に囲まれており、四季の変化をリビングの中から感じることができません。職員は日々ご利用者本位のケアを心掛け笑顔で楽しい生活が維持できるよう、健康上の変化に努め、レクリエーション活動の充実にも努めています。また、リビングにはご利用者様の作品を掲示し、ご利用者の方にも目を楽しんでいただいています。

緑豊かな田園に囲まれた静かな集落の中に、溶け込むように平屋建てのホームが立っている。玄関先には犬小屋があり、柴犬が迎えてくれるなど、外観から家庭的な雰囲気が漂っている。午前中はおやつ前の口腔体操の音が響き、午後はレクリエーションの楽しい笑い声が聞こえてくる。勤続年数の長い職員が多く、入居者とのコミュニケーションもよくとれており、また、近隣の病院との医療連携体制が整っていることから、入居者本人、家族様だけでなく、職員も安心して業務に取り組むことができている。職員の資格取得にも理解があり、地域に開かれた事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を作成し誰でも目に届くところに掲載し、職員全員で理念の共有をしながら毎日の実践に繋げている。	運営理念は、職員がいつでも意識して実践できるようにリビングに掲示し、職員全員が理念を共有できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から地域との繋がりを大切にして、自治会の行事や活動への参加をしたり、現在は苑での行事等の参加は出来ないが、事業所の理解や協力をお願いしている。また日常的に近隣との交流を続けて大事にしている。	コロナの影響で地域の行事が減ったこともあり、以前のように自治会行事や活動を通した近隣の方々との交流は減少したが、地区の掃除には参加し、散歩の際は挨拶や声掛けをし交流を持つようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の電話での相談や訪問がある時はできる限り時間を作って相談にのり話しを聞くように努めている。内容によっては情報提供や地域包括センターとの連携を図りながら支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には利用者の現状や取り組みの状況や変化など報告をし、内容についての意見がある時は検討するようにしている。また地域からの相談等も後日会議内容を職員にも報告をしサービスの向上に努めている。	行政、地域包括、訪問看護、家族の代表の方などと意見の交換ができています。また、地域の方から受けた相談を伝える場にもなっています。会議の内容は議事録にして参加者や家族に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の会議等には時間を作り参加できるように努めている。また担当者との関係を維持しながら積極的に交流を続けている。	市や地域包括支援センターから案内された勉強会に進んで参加している。徘徊の心配のある方については包括職員と話し合い、運営推進会議の場で共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H30年4月より身体拘束委員会を発足し全職員も手引書をもとに周知、理解をしている。身体拘束をしないケアに取り組み、利用者の状況を把握し職員間での連携と言葉かけを意識しながら利用者の所在確認を行いながら取り組んでいる。	身体拘束に関しての外部研修を受けた担当職員が、内容を伝達し職員全員で共有している。アンケートを活用したスピーチロックについての勉強会や声掛けについてのアイデアを出し合うなど職員間でも話し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修後は職員間で勉強会を行い感想や気づき、反省など簡単なレポートを提出し職員間で見直しをしている。また新しい情報や利用者の環境の変化など気付いた時点で話し合い環境整備をして虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には積極的に参加して後日職員にも内容報告をし制度について理解をしながら、また必要に応じて家族等に支援ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については利用者や家族の思い、不安等しっかり時間をかけて話しを聞き、家族が理解できるように説明を行い納得していただいた時点で契約をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族の意見や要望については解りやすく説明をしている。要望については家族等が安心できるように説明して聞き入れて職員も理解した上で支援をしている。	本人や家族の要望は面会時に伺っている。家族も参加されての敬老会などの行事がコロナ禍で現在はできないが、年賀状や暑中見舞いのはがきを、本人から家族あてに、名前だけは書いてもらって出すようにしている。	希望された家族に、本人の様子がわかる写真などをSNSやメールで発信したり、また、ホームだよりを活用したお知らせを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容についての意見や気づきは職員間で話し合いをしている。また管理者を含め全体会議の中で検討して実践をする。会議内容は職員間の申し送りノートに記入して職員間で確認を取るようにしている。	県や行政からの書類は職員間で回覧し、制度の改正や業務の方針については毎月全体会議で共有を図っている。また、気づきはその場ですぐに話し合えるような環境づくりに心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を聞き入れるようにし、働きやすい環境を整え、やりがいや各自の向上心のサポートの支援が出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会はその都度確保する事ができている。研修内容については職員間で話し合いをして業務の中に取り入れる努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の相互の施設での行事や季節の催し等に参加して職員の交流の機会を作り情報交換やサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人や家族からの聞き入れを行い本人が安心して生活に慣れるよう本人に寄り添い、話しやすい雰囲気作りをして皆さんと仲良く、生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族が抱えている不安問題や要望を聞き取り話し合いをして家族が安心できるような要望に答えられるように努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容については、今、必要なサービス支援を見極めて本人や家族が安心できるように話し合いと説明をして、お互いの信頼関係を気付いていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族や親せき、知人などの面会がある時は気兼ねなく話しができるように落ち着いた場所に案内し大切な時間を確保する。要望がある時は職員も同席し安心して話しができるように手助けをする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に生活をする中で人生の先輩としての生活の知恵や人生経験等職員が知らないことなどたくさん学びの機会がある。利用者の尊厳を意識しながらお互いに助け合いながら安心して生活ができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの馴染みの関係が途切れないように面会や外食、外泊など時間は特に規制をせず快く受け入れている。また手紙や電話で交流をされることもあり、いつまでの馴染みの関係が続くように支援をしている。	コロナ感染予防のため、友人などの面会の際は玄関先での面会とされており、関係が途切れないよう支援をしている。また車窓から馴染みの場所に案内するなど個別の対応を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況を把握し共通点を見つけて馴染みの関係を築く手伝いや、孤立した利用者には職員が居場所を提供しお互いが思いやりで支え合うことができるように見守りを続ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談や問い合わせなどがあり今後の生活面での不安や心配などがある時は必要な支援ができるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の今の状態を把握して毎日の会話や表情、顔色等を見ながら反応をみている。困難な時は傍に寄り添い言葉をかけながら状況を見て判断し無理はせず言葉かけは続けるようにしている。	自分の気持ちをはっきり言えない方にも、個別にゆっくり寄り添う時間を持つようにしている。家族から伺った本人の若かった頃の話も共有することで、本人の思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活習慣や経験等の話を聞いて生活の中に活かせるような働きかけをして皆で思いで話しをしながら当時を思い出しながら働きかけをして話しの中に入れてもらい仲良く安心して生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の健康チェック、顔色、表情、言葉かけでの反応など、また立ち上がりや歩行状態等把握して異変の気づき等がある時は職員間で検討して対応の仕方など話しあうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に生活での変化や近況を報告して家族の意向を確認している。また話しの中から新たな情報を得た時は職員間で共有し意欲の向上に向けて計画書に取り入れている。	家族の面会時に本人の近況を報告し、家族の意向も踏まえながら計画書を作成している。本人、家族の意見は職員間で共有しやすいように記録し、目標に沿ってケアに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人のケアチェック表に記入し気づきがある時はその時伝え職員間で検討する。検討内容については申し送りノートを活用し職員間で周知してケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時に利用者の近況や生活の変化など現状を伝え家族にも理解の協力をしていただく。受診については家族に状況を説明し職員が付き添い受診後に結果報告と今後の対応について相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催しや定期的なボランティアの訪問があり楽しい時間を過ごしている。また苑周辺への散歩では近隣の畑や花壇を眺めたりと以前の経験を活かして楽しむことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は家族と相談し定期往診体制を行い主治医からの指示を仰いで対応している。受診の時は受診後に状況や結果を報告し家族に了解をしてもらっている。	コロナ禍であるが、定期受診は往診の体制をとっており、安心して受診できている。医師からの指示があればその都度家族に連絡し、緊急性がある場合も訪問看護師による医療連携体制がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日の訪問看護時に個々の状態や気づきを相談し指示のもと対応する。受診が必要な時は受診結果を家族に報告し職員間で共有し利用者の状態維持と健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族からの相談や治療内容を聞き洗濯物を届け面会の機会を作り状態確認と内容を家族に報告をする。退院については関係者と今後の対応について話し合い受け入れをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化指針や終末期についての内容は説明をして同意書に捺印を得ている。また医療機関との連携を図り方針の共有をしている。医療機関と家族間で十分な話し合いをしてチームで支援に取り組んでいます。	看取りに関しては入居時に同意書を取り、医師と家族が十分に検討された上で、訪問看護師と連携をとりながら、職員がチームとして支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてはマニュアルと、緊急連絡網をさくせいしている。緊急処置ができるように備品も準備をしている。また職員間で対応ができるように把握をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し消火器の取り扱いや避難誘導を行い、その後の反省会で反省や気づきにはきちんと指導を受け次回の訓練への向上に努める。地域への協力は運営会議の時や日ごろ地域への依頼相談をしている。	夜勤の職員も参加し、夜間の火災を想定した訓練を行っている。防災に関しては区長、特別養護老人ホーム、地域の人との三者協定が結ばれている。水害に備えて、水、簡易トイレ、缶詰、オムツ類なども備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所時の生活歴やそのご家族からの情報を把握し日ごとの状況や行動を見守りながらできるだけ自立を促し言葉かけや声のトーン等意識しながら見守り、危険を感じたら解り易く説明をして対応する。	トイレ誘導の際は、本人の羞恥心に配慮し、言葉かけに気を配ったり、扉はきちんと閉めるようにしている。職員間でも個人の尊厳に関する対応について共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況や性格を把握し話しやすい雰囲気と表情や顔色を見ながら本人の話しの内容をキチンと聞いて、否定をせず共感することで信頼関係も築くことができると努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は自由に居室内で横になり時間を見てリビングに出てこられる方や話しが好きな方、歌が好きな方、体操が好きな方など個々に把握をして対応している。雰囲気や表情がさえない時はその都度対応を変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が準備された衣類を使用されているが季節感の理解がない方は、数着を見てもらい本人が選んだ服やその時に応じた着こなしを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態を見ながら皮むきや、スライスなどテーブルに準備をすると数名が集まり一緒に皮むきをしながら会話が聞かれる。また食後は「手伝いましょうか？」と声をかけられ食器拭きやテーブル拭き、椅子の整え等の手伝いがある。	食事はすべて職員の手作りで好評であり、これまでの献立表を見ながら栄養が偏らないように工夫されている。また、畑で獲れた野菜の皮むきを入居者が手伝ってくれることもあり、食事の準備は賑やかである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握しながら希望がある時は量の変更や二炊きにしたり、歯欠損者には荒刻み食や、ミキサー食で提供する。むせや咳き込みのある方にはトロミをつけて誤嚥防止に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は職員が見守り義歯の方は職員が仕上げをする。介助を要する方は椅子に座りガーゼやスポンジブラシなどで口腔内の残産物が無いように拭きとり確認をする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で個々の排泄パターンを把握し随時誘導を行い尿量が少ない時は自分で腹圧をかけて排泄を促す。また夜間はPTイレを使用して自力排尿と失敗の軽減への支援をしている。	日中は、声掛け誘導で紙パンツのみで対応できている入居者が多い。排便の調整がうまくできていない時や便秘が続いている入居者には、往診時に医師に相談し、本人の排泄リズムを整えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立には食物繊維を多く取り入れ、水分摂取では温かいお茶や冷たいポカリ、ジュース、果汁入りのゼリーなど口当たりのいいものを提供している。またレクの時間は身体を動かす体操を取り入れて便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否がある時は時間をずらしたり変更して無理をしない。洗身時に全身の皮膚の状態をチェックし皮膚の乾燥や手の平や足指間部など状態に合わせて保湿や軟膏塗布を行う。体調不良時は清拭、更衣をして清潔保持に努める。	ほぼ一日おきに入浴されている。体調を考慮し、時間をずらしたり、失便があればその都度対応している。季節に合わせて柚子湯や入浴剤を使い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に移動して居室で過ごしたりソファで傾眠したりしている。疲労感が見られるときはベッドに案内して少し休んでもらう。昼夜逆転が無いように時間を見て訪室し言葉かけをしながら状況を把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに綴り、服薬の変更がある時は申し送りノートに記入し職員間で確認をしている。状況変化については主治医、薬剤師に相談してその都度指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握して本人の能力を活かし食事の下ごしらえ、洗濯畳、下膳、食器拭き等日常生活面での手伝いの支援。またおやつ時間はお好み焼やホットケーキ、散らし寿司作りや、冬場は白菜漬けなどを作る楽しみの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の状態を見ながら車でドライブをしたり買い物に行ったりの支援をしている。また家族との外出や友人達と外食の支援や不穩の利用者は近隣への散歩で気分転換を図っている。また季節に合った場所への外出の支援をしている。	コロナ禍ではあったが、数人ずつで梅や桜を見学する個別ドライブを実施した。入居者は近隣地域の方が多いため、車窓からでも天山を見ることができ、入居者は非常に喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族の了解を得て事務所管理し、本人が希望される時は職員が同行し一緒に支払いをする。また家族と外出の折に必要なものは購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は家族に電話をしたり家族からの電話は居室内で気兼ねなく会話ができるようにしている。手紙やはがきの内容については本人が安心できるように読み聞かせをして個人ファイルに入れて保管している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南窓で自然の彩光と開放感を取り入れて外の景色を見ながら季節感を感じ、家庭的な雰囲気の中での生活を重視し、共有空間は利用者で作成した壁飾りや写真を貼って利用者同士の話題作りをして穏やかに生活ができるように工夫をしている。	リビングの南向きの窓は二重窓になっており、空調や日差しも丁度よく管理されている。窓の下には、入居者が持ってこられた花が植えられており、眺める楽しみもある。壁面の飾りは、幼稚にならないように、清楚な展示を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングのテーブル席やソファ席を使用し自分の好きな居場所でのんびりとテレビを見たり、馴染みの方と家族の話や思いで話しなど会話を楽しんでいる。また時間を見て自由に居室に戻りベッドで横になったりと自由に生活できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に持参されたものは見えるところに配置し安心感を維持する。大切にされてきた物は本人が収納したり本人の了解を得て事務所で保管して本人が要求する時は手渡して安心できるように支援している。	ベッドの位置や向きは安全に配慮し、居心地の良い部屋づくりに努めている。床に布団を希望される方には、衛生面を考慮しマットを敷いて対応している。また、位牌の持ち込みも可能であり、落ち着いて安心した生活を過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行導線業」危険物を排除し、場所が解らない時は職員が言葉かけをしながら付き添い、移動の際は手すりを使用してゆっくり歩行をされるように声かけをしながら安全な移動ができるように見守りの支援をしている。		